

『思考と対話：日本哲学プラクティス学会誌』

投稿原稿作成の手引き

日本哲学プラクティス学会編集委員

- 1 投稿原稿は未発表のものに限る。
- 2 原稿作成に際しては、下記の設定に基づき作成すること。
(所定のフォーマットは下記の通り設定されている)

- ・ 用紙サイズ A4

- ・ 余白 上：25.4mm 下：25.4mm 左：19mm 右：19mm 綴代とじしろ：0mm

- ・ ページ

提出する際は所定のフォーマットを使用し、「公募論文」は一つの原稿につき10ページ以内（タイトル、要旨、キーワード除く。所定フォーマットの3ページ目から数えて12ページ目まで。）とする。「研究報告・ディスカッション・書評」は一つの原稿につき5ページ以内（タイトル除く。所定フォーマットの3ページ目から数えて7ページ目まで。）とする。

- ・ 文字の向き：横（左から右）

- ・ フォント、文字ポイント

各部分の文字フォント、文字ポイントは下記のように揃える。

- ・ タイトル部：MS 明朝 16pt（日本語）、Century 11pt（英語）
- ・ 所属・著者名：MS 明朝 14pt（日本語）、Century 11pt（英語）
- ・ 要旨本文：MS 明朝 10.5pt 200 字程度、Century 10.5pt（英語）90 字程度
- ・ キーワード：MS 明朝 10.5pt 最大2行、Century 10.5pt（英語）
- ・ 本文小見出し：MS ゴシック 12pt
- ・ 本文：MS 明朝 10.5pt
- ・ 註：MS 明朝 9pt

3 画像について

図、表、画像の見やすさや画質について、編集担当は責任を負わない。また、図、表、画像等に関する使用許可は、執筆者の責任において、関係する個人・団体と取り結んだ上で提出すること。

4 個人情報の扱い方について

個人・団体を特定できる情報の扱いには注意すること。

原則として、名前や顔写真を含む写真等の個人が特定される情報を出す場合は文書で本人の許可を得ること。得られなかった場合は、仮名を使う、画像処理を施すなど、本人が特定されないように十分に配慮すること。生じた問題について、『思考と対話』編集委員、ならびに日本哲学プラクティス学会は一切の責任を負わない。